

Yokogawa
Zombie
Night

3

開講！ゾンビ大学

～人生で大切なことはみんな
ゾンビ映画で教わった～

入場
無料

申込
不要



講師：岡本 健（奈良県立大学准教授）

日時：10月28日（土）18：00～19：30（受付17：30～）

場所：西区民文化センター（広島市西区横川新町 6-1）

講座提供：NPO 広島アニメーションシティ

イラスト提供：村上渚

人生で大切なことはすべてゾンビから教わった

なぜ、今、ゾンビなのか？

このところ、ゾンビを見かけることが多い。ハロウィンの横川では特にだ。どうしてゾンビはこんなに人々を惹きつけるのか。それは、現代社会が、「他者」とどう関わっていくかを模索する時代だからだ。ゾンビは価値観の異なる「他者」の比喩として機能する。ゾンビは一つの価値観に支配され、襲い掛かってくる。それに対して、我々は無我夢中で対処する。しかし、ふと立ち止まって考える。ただ排除するだけでいいのか。排他主義を掲げ、壁を築くことが最善なのだろうか。あるいは、早く噛まれて自分たちもゾンビになってしまった方がむしろ楽なのではないか。ゾンビはそんなことを考えさせてくれる存在なのだ。

一方で、ゾンビは「自己」の比喩にもなる。自分の生活は、もはやゾンビのように単純なものになっているのかもしれない。ショッピングセンターに通い、スマホゲームに興じ、社畜と化してサービス残業…。生きる目的を失い、たださまようゾンビになり果てていないか。ゾンビは「他者」の比喩としても、「自己」の比喩としても機能する珍しいモンスターだ。多様な価値観がせめぎ合う現代社会に生きる我々の教養として、ゾンビは必要不可欠な存在なのである。



横川ゾンビナイトの新鮮さと面白さ

横川ゾンビナイトの面白さは、没場所的なコンテンツを用いた地域振興だということにある。私が専門に研究しているのはコンテンツツーリズムで、映画やアニメの舞台になった場所に赴く旅行や、それを活用した観光振興である。その場合、コンテンツ作品の口



ケ地やゆかりの地に人々は訪れる。ゾンビの場合はどうか？横川とゾンビには縁もゆかりもない。そもそも、ゾンビのコスプレをする時、明確に「この作品のこのシーンに出てきたこのゾンビ」という個体としてのゾンビをイメージするだろうか？有名なゾンビもいなくはないが、大体が、なんとなくイメージとして持っているゾンビの仮装をする。

ゾンビは没個性であり、没場所的なものだ。ゾンビは誰がなっても、どこに登場しても問題ない。地域の個性が叫ばれる中、逆に没個性的なテーマで地域振興を実施しているところが非常に新しい。さらに面白いのは、むしろ、そこに「横川らしさ」という地域性が出ていることだ。ノリの良さや映画やアートを大切にするとところなど、イベントの実施方法にその個性が出る。地域の特徴とは、無理に担ぎ上げて表現するものではなく、どんなに没個性的なことをやっても滲み出してくるものだということを教えてくれる。

開校！！横川ゾンビ大学

その横川ゾンビナイトで、ゾンビ大学を開校する運びとなった。先ほど述べたように、ゾンビはもはや現代社会を生きる上で必要な教養であるといっても過言ではない。こうした現状で、ゾンビの事を本格的に教える大学が無いとはどういうことか。無ければ作ってしまう方がいい。ゾンビのゾンビによるゾンビのための大学である。本学では、ゾンビ初心者にもやさしく基礎からゾンビについて講義を行う。受講後には、皆さま立派なゾンビエリートとして、社会に羽ばたいてもらいたい。



1983 年奈良市生まれ。北海道大学文学部卒業（専攻は認知心理学）、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院観光創造専攻博士後期課程修了。博士（観光学）。現在、奈良県立大学地域創造学部准教授。著書に『n 次創作観光』（NPO 法人北海道冒険芸術出版、2013 年）、『マンガ・アニメで人気の「聖地」をめぐる神社巡礼』（監修、エクスナレッジ、2014 年）、『コンテンツツーリズム研究』（編著、福村出版、2015 年）、『メディア・コンテンツ論』（共編著、ナカニシヤ出版、2016 年）など。

お問い合わせ：NPO 広島アニメーションシティ事務局

（広島国際学院大学情報文化学部 谷口重徳研究室内）

<http://hac.or.jp> Email: hac-jimu@hac.or.jp

フライヤーデザイン：広島国際学院大学情報デザイン学科 藤尾晴香・山本千晶

